

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立栄小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒441-8019

豊橋市北山町字東浦46の4

E-mail sakae-e@toyohashi.ed.jp

Website www.sakae-e.toyohashi.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 411名 女子 385名 合計 796名 (2月26日現在)

幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校の今年度の取り組みを「過去・現在・未来という時間や時代、世代をつなぐ『たて糸』と、友達・教師・保護者・地域・もの・ことをつなぐ『たて糸』で織りなす教育活動」と定め、テーマを「つなぐ～Hataori～」とした。またねらいを「心に残る授業・未来の自分や社会に生かせる学びの実現」とし、【友達の意見を聴きたい、自分の意見を伝えたいという思いをもって授業に取り組める子】【人とのつながりをたくさんつくるために、挨拶ができる子】【思い切って、自分の声や自分の思いを表現できる子】を目ざす子どもの姿とした。

具体的には①心に残る授業の実践、②あいさつ運動、③合唱・群読・お話タイムを活動の柱に、ねらいに迫る教育活動に取り組んだ。

①心に残る授業の実践

「持続可能な社会づくりの担い手を育てる」というESDの視点を本校なりに上記のねらいと捉え、そのために教職員どうしが授業改善に努めた。

《実践例》「6年 総合的な学習「防災・そのときどうする？」

起震車や煙体験という疑似体験はできるものの、本物体験は難しい学習テーマである。ここでの実践では、出前講座を効果的に取り入れ、興味関心を高めたうえで、「その時どうする？」という場面をいろいろ想定する「ケーススタディ」をメインに置いた。「登校時」「下校時」「入浴中」「食事中」に大地震が起きたとき、自分はどのように行動するかを考

え、話し合いを行った。公開授業では、ケーススタディの一つ『車で県外に逃げよう』と誘われたらどうしますか」という課題で話し合った。町が壊滅状態のとき、安全な地域に避難するのか、地元に残り協力しながら復興に力を注ぐのか、難しい選択である。これまでの学習で、防災を自分事と捉えている子どもたちは、真剣で熱を帯びた話し合いを展開した。A男の「ぼくは住み慣れたこの町がいいから、近所のみんなと一緒にがんばって生活します」と声を震わせながら放った意見が印象的であった。「切実感のわく課題設定」により「伝えたい！聴きたい！」という思いが高まった話し合い」となり、子どもたちにとって心に残る授業になったと考える。

②あいさつ運動・あいさつ会議

今年で4年目を迎える「目ざせあいさつ日本一」。児童会、特活部会が中心となって、さまざまな方法で挨拶ができる子の育成に取り組んでいる。“形”で盛り上げていく「あいさつ運動」と、挨拶の大切さを考え、“内面”を育てていく「あいさつ会議」を両輪として挨拶の実践力を高めている。「あいさつ会議」とは、毎週木曜日の朝の活動「お話タイム」の中で、月に一度全校統一テーマで行う話し合い活動である。毎回、話し合いの板書を写真に撮り、全学級、2階渡り廊下に掲示し、各学級でどのような考えが出されているか、子どもも教師もわかるようにしている。今年度は、更にその渡り廊下を「スマイルロード」と名付け、笑顔のすてきな子・職員・PTA 役員を選び、顔写真を掲示することで、爽やかな挨拶、気持ちのよい挨拶を呼びかける手立ての一つとした。発展途上ではあるものの気持ちのよい挨拶ができるようになってきている。

③合唱・群読・お話タイム

今年度、「今月の歌」に加え、「今月の詩」を取り入れ、詩の群読に取り組んだ。各学級で朝の会や帰りの会で練習し、全校集会（SKE集会）で全校群読として、全校で思い切り声を出し合った。最初、大きな声を出すことや体を動かしてリズムをとることに抵抗のあった子も、次第に声やリズムを合わせるおもしろさ、他学年とのかけあいの楽しさといった群読の魅力に引き込まれ、思い切り表現できるようになっていった。保護者、参観者を前に披露した「栄オリジナル『地球まるごとワッハッハ』」は、大きく体でリズムをとる姿や口を大きく開けて思い切り声を出す姿から見て多くの人の心を動かした。



①6年 総合的な学習「防災・そのときどうする？」の様子



② あいさつ会議の板書



② あいさつ運動の1コマ



③ 全校群読の様子

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・ ESD（持続可能な開発のための教育）推進の手引（初版） 文部科学省国際統括官付 日本ユネスコ国内委員会発行
- ・ 「持続可能な開発のための教育（ESD）はこれからの世界の合い言葉 みんなで取り組むESD！」
ー持続可能な社会づくりを目指した取組に向けてー 国立教育政策研究所 教育課程研究センター発行

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

各教科・領域をＥＳＤの視点で見直し、各学年、取り組むことができる単元を年間単元表の中に明示している。さらに、その中からメインで取り組むものを大単元表として起こしている。また、その大単元表を毎年見直し、どの職員が担当しても取り組めるようにしている。

授業づくり・研究協議において以下の６視点【心に残る授業をつくり、振り返るための６つの視点】について振り返りを行い、改善を図っている。

- ① 追究意欲を持続する単元構想
- ② 五感を使う本物体験
- ③ やりたい！知りたい！という切実感のわく課題設定
- ④ 伝えたい！聴きたい！という思いが高まった話し合い
- ⑤ 本時の教師支援
- ⑥ 人の話をよく聴き、思い切りアウトプットする姿

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

あえて、新しいものを起こすのではなく、今まで本校が取り組んできたものをＥＳＤの視点で見直し、修正を図ることで、全校児童・全職員が戸惑うことなく取り組めるようにしている。また、組織を改めて作り直すのではなく、ユネスコスクールプロジェクトチーム、校内現職委員会を中心に、検討・全職員への提案を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

今年度は、ユネスコスクール豊橋大会の発表校となったため、市内だけでなく全国から参観者を招いて、活動の参観と評価をいただく機会を設けることができた。子どもの姿、職員の活動や授業に対する評価は概ね高評価をいただいた。課題としては、ＥＳＤカレンダーの作成についての内容が中心であった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

④に記述したとおり、今年度については、ユネスコスクール豊橋大会の発表校として、発表の機会があったため、実際の活動の様子を見ていただくことができた。また、リーフレットや発表時のプレゼンによる発信もできた。効果については④に記載。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

特に、2年生の生活科、6年生の総合的学習の時間の授業で、近隣にある愛知大学に協力を要請している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度、ユネスコスクール豊橋大会の発表校となった、本校他3校と情報交換しながら研究を進めてきた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

本年度は、「子どもの姿で勝負」を合言葉に、すべての活動に取り組んできた。その結果、子どもたちの授業中の発言（息の長い発言・大きな声で自分の考えを述べる姿）や、高学年が協力して主体的に学校をリードしていかうとする姿、友達の考えをしっかりと聴き、それに対する自分の考えを述べる姿などが見られるようになった。また、教員の授業づくりに対する構えや、学年職員全員で一つの授業を作っていこうとする姿勢が見られるようになった。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

- 本年度の活動を継続発展していく。
- 心に残る授業の実践
 - ・ ESD の視点で見直しを図った大単元表をもとに、各学年団一人ずつの全体研究授業を行う。その際、上記②で記した6視点【心に残る授業をつくり、振り返るための6つの視点】により、授業づくり・協議会を行い、授業改善を図る。
 - あいさつ運動
 - ・ 今年度同様、「あいさつ会議」と「あいさつ運動」の双方を充実させる。今年度途中から結成した「あいさつ盛り上げ隊」、2階渡り廊下「スマイルロード」の充実を図る。
 - 合唱・群読・お話タイム
 - ・ 声を出すことを楽しめる場、友達の考えを聴き合う場として、さらに、充実を図っていく。